

# 再発見・牛久第二十九話

牛久市文化財保護審議委員

栗原 功

## 小川芋銭作品・

### 資料等の受贈

故・池田龍一氏の

子孫の方より寄贈

―芋銭の作品・資料など25点―

牛久市では、平成24年7月に、小川芋銭と親交のあった故・池田龍一氏の子孫の方より、芋銭の絵画及び資料など25点を寄贈いただいた。

受贈の一部作品は、平成25年9月14日～10月14日開催の第4回小川芋銭展に展示された。

つぎに受贈作品の主なものを挙げ簡単な解説を試みた。

#### 【遠山近水】(下の絵)

昭和6年(1931年)の作で、芋銭の古稀を記念しての、昭和12年(1937年)刊行画集『芋銭子開八画冊』に収録されたものだ。作品を収めてある箱裏に、

芋銭の自筆で『乃里濱(正式な地名は『乗濱』)と書かれてある。乗濱の本源は、平安時代(延暦13年・794年の平安都から)の律令制(刑法と行政・訴訟両法に基づく諸制度の下で、それまでの乗濱郷という末端行政区画の廃止により、数力村に分割され、この時点において郷名呼称の乗濱が消滅していた(『郷に入つては郷に従う』という処世の法があった)。郷名呼称・乗濱の地域は、旧桜川村、現稲敷市に帰属している古渡、三次、飯出上馬渡、下馬渡、浮島あたりとされている。本作品には、ここ霞ヶ浦の浜から遠く紫峰筑波を望む風景が、水墨で平明に描かれている。

#### 【春雨の浦山(春雨の鳥)】

芋銭晩年の昭和9年(1934年)作で、京都美術館(現在の京都市美術館)大礼記念美術展出品の作品である。作品を描いた地方は特定することはできないが、牛久沼よりも規模の大きな湖に題材を求めたようだ。『仙』とか『聖』とか

呼ばれた芋銭が、このような風景を理想郷としたようだ。

#### 【草汁庵旧居図】

草汁庵と雲魚亭の間の道から沼側を見た風景が描かれてある。作品の中心部には、河童松※とお茶屋松※が描かれてあるが、これらは芋銭没後に相次いで枯れ、朽ち果てている。

※河童松は芋銭の作品集・河童百図の中に出てくる。芋銭旧宅近くにあったが、昭和30年(1955年)頃枯死してしまつた。

※お茶屋松も芋銭旧宅近くにあった名松のことである。江戸時代に牛久藩主山口侯が代々、この松の下で茶会を催したことからこの名がついた。昭和62年の写真には倒れたお茶屋松が写し出されている。

#### 河童の碑建立の尽力者

で芋銭の絵の鑑定者と

しても著名な池田龍一

池田龍一は明治23年(1890年)の生まれで、京都帝国大学医学部大学院(現京都大学)を卒業



遠山近水(えんざんきんすい)

―牛久市が所蔵している小川芋銭の絵画は平成26年7月現在で39点―

した大正9年(1920年)に三郡共立福島病院の小児科部長として迎えられた。以来、小児科の池田先生として親しまれたが、もう一方では異色の文人医者とも称されていた。昭和44年(1969年)に福島市で病没した。池田は、書を良寛の作品に学び、画は芋銭に傾倒し、短歌もよくした。芋銭の人と芸術に深く心酔し、芋銭顕彰にも努め、また芋銭の作品の鑑定者としても著名であった。昭和27年(1952年)建立の河童の碑は、池田なくして建つことはなかつたと伝えられている。